

「農産物のブランド化も話し合う目標地図作成への取り組み！」

京都府 南丹市農業委員会 <摩気の持続する農業を考える集い（摩気（まけ）地区連絡会議）>

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	19人
○ 農地利用最適化推進委員：	29人
○ 事務局職員：	4人
○ 市町村行政との連携状況：	毎月1回市役所で事務局と市担当者、現地推進役等で調整会議を開いている



2 地区の特徴、状況、課題

- 南丹市園部町は旧6町村からなる地域で、摩気地区8集落は全域が市街化調整区域に区分される
- 当地域は、園部川、本梅川、半田川に沿った平地での稲作を中心に京野菜の産地となっている
- 農業法人や大規模農業者が地域の担い手となっているが、山間部で耕作放棄地が増加している



3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 令和3年7月に新体制に移行、同年度中に市全域で京力農場プラン策定。
- 令和5年1月、同地区の高山の郷振興会の別組織として「摩気の持続する農業を考える集い」が発足し、将来の担い手や農産物のブランド化を話し合う場を組織化される。
- 市担当課からの地区別説明会当終了後、農閑期を待って最適化推進委員が地区連を招集し、区長や農事組合長にパワーポイントを用いて分かりやすく今後の取組内容とスケジュールを説明。質疑に応じる。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 令和3年度に京力農場プランが策定され、地域の活動から農業部門を別組織化し、目標実現に向けて取り組みのみならず、農産物ブランド化も併せて話し合っている。
- 目標地図の準備として、まず地元役員に対し現況地図の精査への協力を要請。スケジュール表に従って、目標地図、計画策定に向けた行程を共有し、活動方法を確認。今後も定期的参集することで進捗を管理する。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください